

データヘルスサイエンス入門プログラム 自己点検評価について

1. プログラム対象生：看護学部 令和3年度入学生、令和4年度入学生
2. 評価組織：教育の質向上委員会
3. 評価日：令和5年3月15日（水）
4. 評価基準

S：非常に優れた点があり、プログラムの趣旨を達成している。

A：優れた点があり、プログラムの趣旨を概ね達成している。

B：プログラムの趣旨を概ね達成しているが、更なる改善が望ましい。

C：プログラムの趣旨を達成するために、改善が必要である。

－：現段階では評価対象外

プログラムの履修・修得状況	カリキュラム改正にともない、本プログラムも見直しを行い、令和4年度より、上記4科目を1年次に配置し、教授内容を強化した。令和4年度は4科目（必修3科目、選択1科目）を1年次に修了し、対象者99名全員が履修・修得した。また、選択科目である「コンピュータリテラシー」は95%以上が履修した。なお、本学では、認定プログラム外の選択科目を積み上げ、体系的にデータサイエンスを学ぶカリキュラムとしており、旧カリキュラム、新カリキュラムともに次年度以降の選択科目履修の可能性を示した学生はいずれも75%であった。	S
学修成果	各科目の単位認定試験において、学習目標の到達度を評価するとともに、「データ・AIの利活用と看護師の役割」について考察させたレポートによって、数理・データサイエンス・AIに対する思考面での学習成果を評価している。全科目とも全員が単位認定試験に合格し、目標に到達している。	A
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	知識、スキル、態度の3点から理解度や習熟度を測る独自の調査項目によって自己評価を行ってもらい、プログラム前後でその変化を評価している。旧カリキュラムの学生は1年次前・後・プログラム修了後の3時点で比較し、いずれの項目も統計学的に有意に上昇がみられた ($P < .001$)。新カリキュラムの学生は、プログラム前・後で比較し、「AIやデータの利活用について興味・関心があるか」のみ受講後に有意な上昇はなかったが、その他の項目には有意な上昇がみられた ($P < .001$)。	A

<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>認定プログラムには上学年の選択履修科目はないが、本学が有する上学年プログラムである選択科目「医療統計学Ⅱ」において、科目修了時に後輩への受講の推奨度について調査を行った。履修者6名中5名が回答し、「強く勧める」3名、「履修した方が良い」1名、「どちらでもよい」1名であった。自由記述では、「実データを用いた分析は難しかったが、結果がでると達成感があった」、「データ分析の楽しさを知った」などの意見が得られた。その結果について、リテラシーレベルプログラムを修了した学生に周知し、選択履修への意欲を喚起した。</p>	<p>A</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本学は看護学部看護学科の単科大学であり、さらに認定プログラム構成科目4科目中3科目が必修科目であることから、全学的な履修を可能としている。大学独自のデータヘルスサイエンス入門プログラムにおいては、さらに学修を深めたい学生のニーズに対応する選択科目も設定しており、体系的にデータサイエンスを学ぶカリキュラムを構築している。さらに、学部における入門プログラムで興味関心を持った学生が大学院で学べるよう、令和5年度よりデータヘルスサイエンス看護学領域を新設した。これらの体系的なカリキュラムについて、学部入学時の教務課からのガイダンスで履修の推奨を行っている。</p>	<p>A</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>プログラム履修者は在学中のため、現時点での進路の評価は行えていないが、卒業後に調査を実施し、活躍状況について評価するものとする。その際、卒業生の就職先である医療機関へヒアリングを行い、教授内容についての検討を行う予定である。</p>	<p>—</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>外部評価委員会（地元産業界、自治体等）において本プログラムについて説明。今後のデジタル社会において有益なプログラムであるとの評価を得ている。</p>	<p>—</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を</p>	<p>社会でデータやAIが活用されている事例を多く示し、特に医療現場という身近な場で実装されつつある様々な例を概観することで、これからの価値の創造に関わるための素地を養うことに意欲が持てる内容としている。「データヘルスサイエンス入門」では授業ごとにコメントを提出させている。初回では</p>	<p>A</p>

理解させること	初めて知ったことに対する感動が多く述べられ、それでもデジタル技術の応用に否定的な声もあったが、最終回では医療への利活用として驚きや魅力を感じたとの声があがっていた。	
内容・水準を維持・向上しつつ、より「わかりやすい」授業とすること。	旧カリキュラムで2年間に渡って構成していたプログラムを、カリキュラム改定に伴って新カリキュラムでは1年間の履修とし、科目の内容を整理して、より「わかりやすい」授業とした。パソコン演習を通じたデータ分析では、その中で統計学の知識の意味が理解できる授業構成とし、パソコン操作スキルに自信がない学生に配慮し、新カリキュラムでは「コンピュータリテラシー」を選択科目として配置した。また、課外でパソコンサポートクラスを開催し、延べ30名程度が参加し、「個別に対応してもらってわかりやすかった」との声が聞かれた。	A